

(11)九州



九州地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注)下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

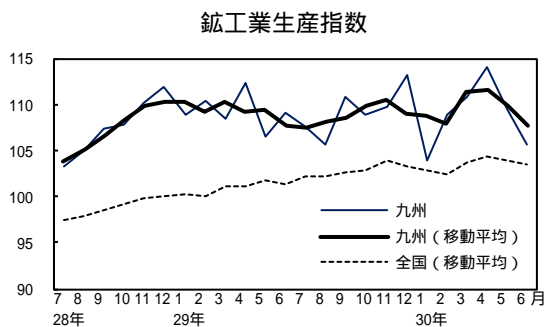
前回からの主要変更点

| | 前回(平成30年5月) | 今回(平成30年8月) | |
|-------|-------------------|-------------|--|
| 景況判断 | 緩やかに回復 | 回復 | |
| 鉱工業生産 | 高水準で推移しているものの、一服感 | 高水準で推移 | |
| 個人消費 | 持ち直しの動き | 持ち直し | |
| 住宅建設 | 減少 | 増加 | |

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

4 - 6月期には、輸送機械は、普通乗用車等を中心に増加した。電子部品・デバイス、半導体集積回路(CCD・その他)等を中心に増加した。はん用・生産用・業務用機械は、高水準で推移しているものの化学機械・同装置等が減少した。食料品は、減少した。化学・石油石炭製品は、定期修理等により減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

| | 付加価値ウェイト | 生産 | | | | |
|---------------|----------|---------|---------|------|------|------|
| | | 1 - 3月期 | 4 - 6月期 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 輸送機械 | 24.5 | 3.0 | 6.9 | 4.7 | 4.5 | 11.2 |
| 電子部品・デバイス | 12.3 | 11.4 | 10.0 | 15.1 | 2.9 | 0.5 |
| はん用・生産用・業務用機械 | 11.2 | 1.9 | 7.7 | 0.5 | 23.5 | 14.1 |
| 食料品 | 9.6 | 1.4 | 1.0 | 3.4 | 4.1 | 2.4 |
| 化学・石油石炭製品 | 8.3 | 6.3 | 0.3 | 8.0 | 9.7 | 8.6 |
| 鉱工業 | 100.0 | 2.4 | 1.8 | 3.0 | 3.9 | 3.6 |

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4 - 6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年 = 100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

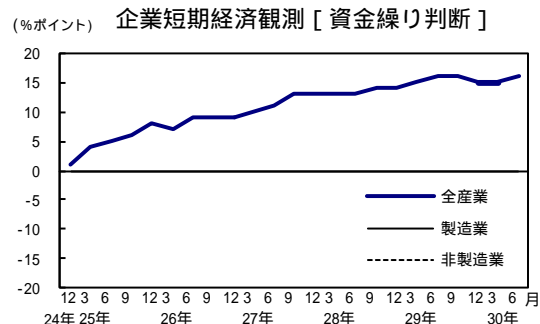
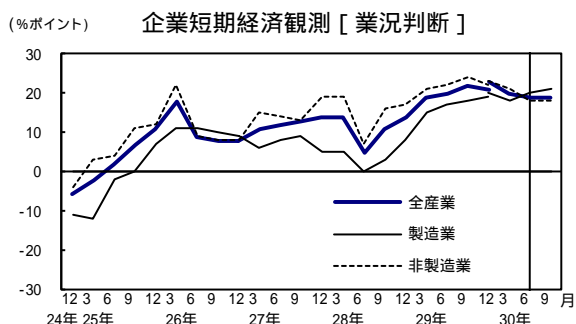
2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

(11) 九州

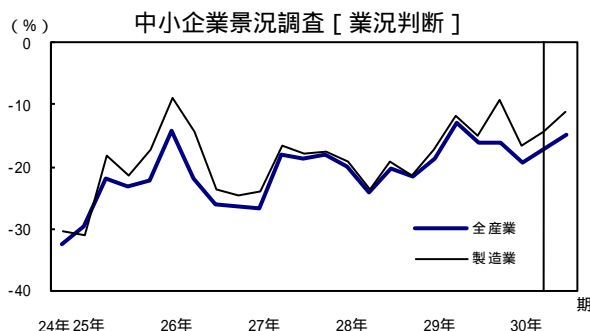
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年9月は予測。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。
25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

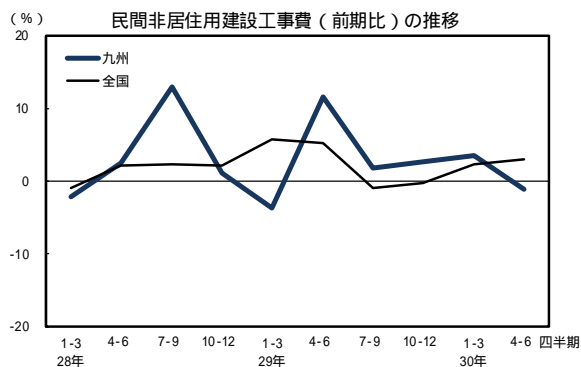


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「取引先から、製品の受注において単品部分だけではなく、一連の業務を全て引き受ける条件での要請が強くなっている(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]
(前年度比、%)

| | 29年度実績 | 30年度計画 |
|------|------------|-------------|
| 全産業 | 24.0 (1.2) | 15.1 (11.5) |
| 製造業 | 29.2 (2.8) | 21.7 (7.9) |
| 非製造業 | 17.9 (0.6) | 6.7 (17.2) |

(備考) 1.()は前回(3月)調査比修正率。
2.リース会計対応ベース。
3.沖縄を含む。

(備考) 1.季節調整値。
2.30年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比1.2%増、5月は同0.1%減、6月は同0.6%増となった。

百貨店・スーパー販売額

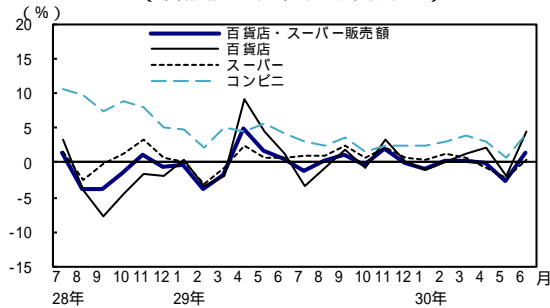
百貨店は、4月は、衣料品や飲食料品に動きがみられた上、高額品や化粧品が動きがよく、3か月連続で前年を上回った。5月は、土日祝日の日数が前年より1日少なかったことに加え、上旬の気温の低下や天候不順等から入店客数が減少したことなどにより衣料品、飲食料品の動きが鈍く、4か月ぶりに前年を下回った。6月は、クリアランスセールが前倒しされたこと、土曜日が昨年よりも1日多かったことに加えて、高額品や化粧品の動きが良かったことなどから2か月ぶりに前年を上回った。

スーパーは、4 - 6月期は、飲食料品等の動きが鈍く、前年を下回った。

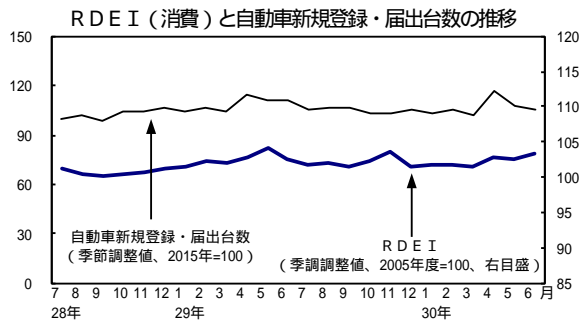
景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「来客数が大幅に増加している。前年度と比較しても上昇している (乗用車販売店)」など「良くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



| | 30年4-6月 | 30年4月 | 5月 | 6月 |
|--------------|---------|-------|-----|-----|
| RDEI (消費*1) | 1.1 | 1.2 | 0.1 | 0.6 |
| 百貨店・スーパー(*2) | 0.4 | 0.1 | 2.5 | 1.5 |
| 百貨店(*3) | 1.5 | 2.3 | 2.0 | 4.4 |
| スーパー(*3) | 0.8 | 0.8 | 2.1 | 0.5 |
| コンビニ(*3) | 2.6 | 3.0 | 0.7 | 4.2 |
| 乗用車(*4) | 2.3 | 3.0 | 3.1 | 5.8 |
| (季節調整値)(*4) | 5.5 | 13.4 | 7.8 | 2.0 |



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

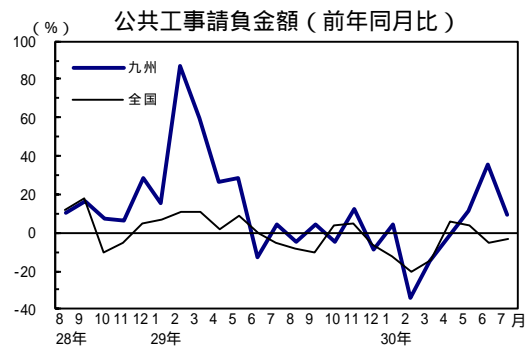
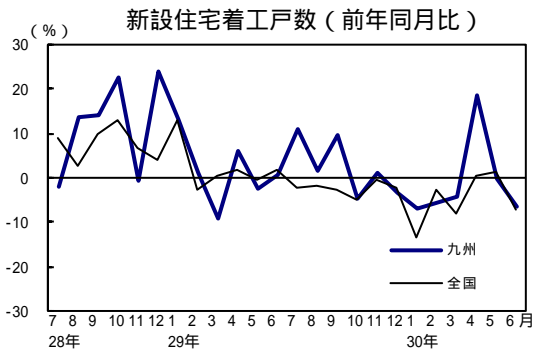
・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

(2) 住宅建設は前年に比べて増加している。

貸家が前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は30年度累計で見ると前年度を上回っている。

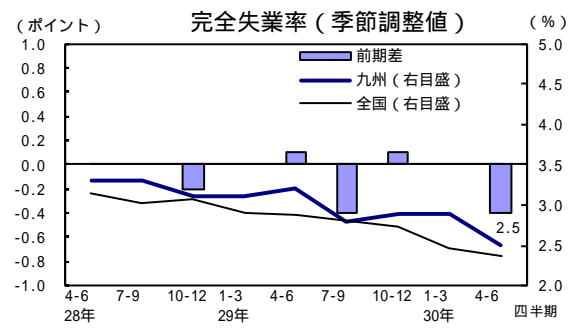
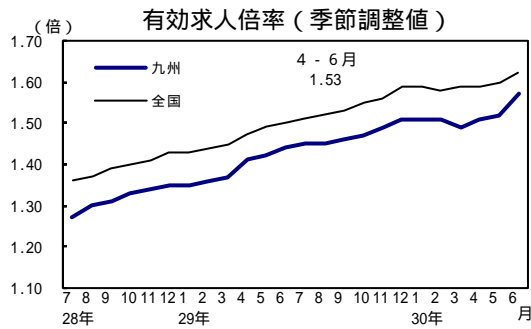


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考)内閣府にて季節調整。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[雇用関連(現状)]

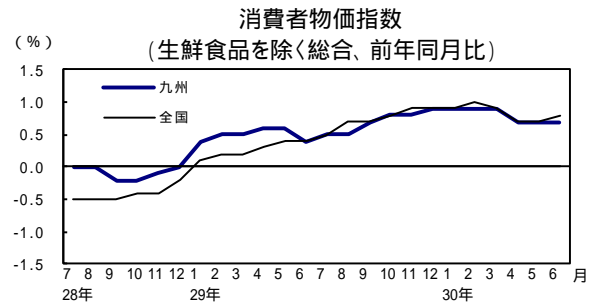
「熊本地震復興に伴う建設業や飲食・宿泊業、卸売小売業からの求人は一段落し、現在当所の求人で多いのは、看護師・介護士等を中心とした医療福祉業と派遣・請負業である。ただし、いずれも夜勤等の労働条件や雇用不安定のために求職者からの応募が少なく、募集期限切れの更新を繰り返している(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|----------|--------|---------|------|-------|
| | 29年7-9月 | 10-12月 | 30年1-3月 | 4-6月 | 30年7月 |
| 倒産件数 | 119 | 137 | 133 | 157 | 54 |
| (前年比) | 21.2 | 3.0 | 3.9 | 22.7 | 38.5 |
| 負債総額 | 114 | 205 | 188 | 175 | 116 |
| (前年比) | 70.5 | 51.8 | 42.4 | 33.6 | 468.2 |



景気ウォッチャー調査(季節調整値)

